



みんなでがんばろう ● 日本

2019 年度 年次報告書

GREAT EAST JAPAN EARTHQUAKE RECOVERY INITIATIVES FOUNDATION

公益財団法人東日本大震災復興支援財団





代表理事

石 義 勝

東日本大震災から10年目の春を迎えました。昨年は台風の脅威を感じた年でもあり、震災から立ち直りつつある東北の地でも台風の爪痕が大きく残りました。私たちは、震災と台風の二重に被災された方の生活再建やお子さまの学習環境を整える一助となればという思いから、まなべる基金奨学生への追加奨学金支援と、15歳以下のお子さまへの児童学習支援を実施しました。10年の歳月が流れても生活が整うことが難しいご家庭もまだ多くいらっしゃいます。私たちはこれからも状況に見合った支援を模索していきたいと思っております。

そして、今年は東京オリンピック開催の賑わいの年になるかと思いきや、新型コロナウイルス感染症の拡大により、私たちの日常は一変してしまいました。

子どもたちは休園・休校となり、外出自粛、オンライン授業導入、3密への注意により自宅で過ごすことが多くなりました。これまでの暮らしが制限され、ストレスを感じる方も少なくなかったことでしょう。当財団も、毎年開催しておりました活動報告会が中止となり、とても残念に思っております。

しかし、一方でICTを使った取り組みが急速に整備化されています。当財団では、既にオンライン指導を「東北『夢』応援プログラム」で取り入れており、一流アスリートからの指導を数か月にわたって受講する取り組みは、まさに今の時勢に合致するものと言えます。ICTの今後の活用・浸透によっては、子どもたちへの支援方法は無限だと感じております。

これからの私たちは、従来の生活様式を見直しながら前に進んでいかなければなりません。あの未曾有の震災から復興に歩んでいる私たちなら、お互いを思いやり、みんなでがんばることが出来ると信じています。そして、未来ある子どもたちには、困難に直面してもそれを乗り越えられる多くの力を身に付けられるよう支援していきたいと思っております。「そとで遊べるということ 自由に学べるということ 未来を描けるということ」、これらを今後も可能にするため、私たちは引き続き活動を続けてまいります。

これからも、引き続きのご支援をくださいますようお願いいたします。

当財団の理念

復興支援を通じて、
次の世代が幸せに暮らす
社会の創生に貢献する。

目指すビジョン

子どもたちが夢と
希望を育む
環境を実現する。

設立～2020年3月末まで

支援額合計

41.75億円

※決定した今後の支援予定額も含む。

支援者数合計

約82,600人と594団体

※詳しい支援活動の内容は、中面をご覧ください。

活動のあゆみ



2019年度 トピックス

東日本大震災と令和元年台風第19号による二重被災された方への支援を実施

満20歳以下の「まなべる基金」奨学生がいる世帯を対象とした追加の奨学金支援と、15歳以下の児童を対象とした児童学習支援を実施しました。両支援は、二重被災という困難な状況の中でも継続的な学習環境を整えていただくことを目的として実施しました。

※両支援の詳細は当財団ホームページにてご確認ください

震災伝承活動うちわを作成し、岩手県釜石市鶴住居復興スタジアムで配布 (ユースアクション東北)



震災の教訓と復興支援への感謝を伝えたいと想いから、地元の釜石高校の生徒たちが日本語と英語で各面に表記した「津波伝承うちわ」をラグビーワールドカップで釜石市を訪れる世界中の人たちに配布しました。形に残るうちわとして配布することで、使うたびに震災の事、日常の大切さや地元釜石について知ってもらおうことが目的です。暑さをやわらげる日本の伝統的なうちわということもあり外国の方にも好評でした。



2019年度活動報告会開催中止となりました

2019年度の活動報告会を2020年3月4日(水)に開催予定でしたが、参加者および関係者の皆さまの健康・安全面を第一に考慮し開催中止となりました。

本報告会は、ご寄付者の方へ直接御礼と活動の報告をさせていただき貴重な機会であり、参加を楽しみにされていた方には大変申し訳ありませんでした。開催中止となり大変残念ではございますが、これからも当財団は引き続き東北の子どもたちの支援を続けてまいりますのでどうぞ今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

学べるしあわせをみんなに
高校生対象給付型奨学金
「まなべる基金」

給付型奨学金 まなべる基金



東日本大震災の影響により家庭の経済状況が変化し、就学や進学が困難、また経済的な理由により学校生活に支障をきたす高校生のための、返還不要の奨学金制度です。高校入学から卒業までの間、最大51万円を給付しています。高校生向けの給付型奨学金制度が少ない中、進学・就学が困難な状況においても学ぶことをあきらめない高校生を応援し続けています。

支援総額 **16.02億円** 支援者数 **2,926人**
※支援総額には今後の支給予定分も含む

連携団体
◎NPO法人ジービーパートナーズ



支援のお礼メッセージ まなべる基金

震災の影響で父が1年後に体調を崩し、仕事も休まざるを得ない状況が長く続き、家計の収入も減り、苦しい状況がありました。そんな家庭状況でしたが、小学生のころからマーチングバンドの活動をしており、マーチングバンド部で有名な大洗高校にどうしても進学し大好きなマーチングがしたい思いがあり、中学の担任の先生に相談したところ「まなべる基金」を紹介してもらいました。家族のもとを離れての高校生活は部活動に明け暮れた3年間で、奨学金はオーストラリア遠征の遠征費や学費の一部にあてさせていただきます。充実した3年間を送ることができたのは寄付していただいた方々のおかげと感じています。ありがとうございました。(宮城県石巻市出身/2019年3月卒業)



地域と向き合う若者の活動を支援し、東北に活気と変化を創造する ユースアクション東北



地元の復興や活性化に取り組む高校生や大学生の活動を支援しています。活動費用の助成の他、活動の実現に向けて助言や協力をしてくれる「伴走者」も紹介し、東北に更なる活気が生まれていくことを目指します。

支援総額 **463万円** 支援件数 **33団体**



助成団体のメッセージ ユースアクション東北

活動を通して、自分の考えを人に伝えるためにはいろいろな工夫が必要だということが分かりました。伝承する方法もいろいろあるので、伝えたい相手や目的によって工夫ができることに気づき、チラシではなく手元に残り、時間が経っても見たときに思い出してもらえる「うちわ」を作ることになりました。プロジェクトを始める前は不安な部分が多かったですが、周りの支えもあって進めることができ、自分自身成長できたと感じます。今までは周りの意見に合わせることが多かったですが、自分の考えを形にする意思を持って、実際にやり切った自信が付き、積極的になりました。このプロジェクトを通して、新たな出会いもあり、人の繋がり的重要性を学ぶことができました。(岩手県釜石市/For the future)

支援活動団体向け助成
子どもサポート基金

子どもたちの成長を支える団体の活動をバックアップ 子どもサポート基金



東北の子どもたちの支援活動に取り組むNPOやボランティア団体への助成を行っています。団体が継続して活動できるよう、**複数年にわたる助成**を行うとともに、**組織の基盤強化をサポート**し、希望を持ってたくましく成長できるような健康づくりを推進しています。

支援総額 **9.77億円** 支援件数 **426団体**
※今後の助成予定額および助成予定団体も含む
※2019年度は継続支援を実施

助成団体のメッセージ 子どもサポート基金

陸前高田市の子どもたちが地域に関わり、多様な生き方や働き方を知る機会を作りたいという思いから、教育事業を実施しています。キャリア教育・プログラミング教育等で地域の人材が小中学生への授業やサポート、子どもたちのやりたいことをかたちにするマイプロジェクトの支援を行うなど、幅広いプログラムを実践し、その過程で学校内外で地域のおとなが地域の子どもの成長を支えるしくみができつつあります。今後は震災・歴史の伝承を目的に、震災前の市街地の大規模模型の活用や、子どもの語り部育成などを計画しています。引き続き変わらぬ応援、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。
(岩手県陸前高田市/一般社団法人トナリノ)

※2020年6月1日に一般社団法人 SAVE TAKATAから法人名変更



興味のあるスポーツに出会い、夢や希望をもってスポーツに取り組む ふくしまスポーツキッズ発掘事業



震災後、屋外での活動を自粛してきた福島の子どもたちへ多くの運動の機会を提供し、様々な競技に挑戦することにより、体力、運動能力の向上と復興を支える人材育成に取り組めます。

支援総額 **2,638万円** 支援者数 **4,054人**
※2020年3月までの支援額

連携団体
◎公益財団法人福島県体育協会

助成団体のメッセージ ふくしまスポーツキッズ発掘事業

私が考えるリーダーシップとは、有言実行です。3年間活動に参加させていただき、他競技の選手やトップアスリートの方と活動する中で、自分の考えを相手にしっかり伝え行動することの大切さを学びました。言うだけでなく、行動することができる人になりたいと思います。貴重な体験をありがとうございました。

(参加者 中学3年生)





自ら行動する力を育み、未来の東北を担う人材を目指す 東北「夢」応援プログラム



東北に所縁あるトップアスリートやプロコーチたちの指導を通じて、東北の子どもたちの夢や目標の実現に向けて「主体的に計画・行動できる力」を育み、将来の東北を担う人材育成を目指します。本プログラムでは、専門コーチたちは現地訪問による対面指導だけでなく、ICTを活用した動画指導を用いることで、子どもたち自ら掲げた目標の実現を継続的に応援しています。

支援総額 **1.19億円** 支援件数 **1,038人**

※2020年3月までの支援額

協力団体
◎ソフトバンク株式会社
(動画指導で活用する通信機器をプロコーチなどへ貸し出し)



支援団体のメッセージ **東北「夢」応援プログラム**

ご指導ありがとうございました。大山加奈さんに指導して頂いている時の子供たちの笑顔を見て、改めて楽しんでバレーをする事の大切さを実感しました。現在、新型コロナウイルスの影響で2月下旬以降練習が出来ていません。これは東日本大震災以来の事です。当時も今もたまに会った時の子供達は「早くバレーがしたい!!」とっています。1日でも早く子供達が笑顔でバレーが出来る様この状況が終息する事を願っています。
(宮城県南三陸町/南三陸バレーボールスポーツ少年団)

地域や人と交流しながらさまざまなプログラムに挑戦する

福島子ども未来塾



福島県の未来を担う人材の育成を目指し、自然体験や郷土文化の学習、国際交流など、1年をかけて総合的な体験活動を提供しています。仲間と一緒に寝食を共にし、さまざまなチャレンジを重ねながら、福島の未来や自分自身の将来を描きます。

支援総額 **5,750万円** 支援者数 **1,093人**

※今後の支援予定額および支援予定者も含む

主催
◎独立行政法人国立青少年教育振興機構
連携団体
◎一般財団法人UNITED SPORTS FOUNDATION
◎NPO法人じぶん未来クラブ など

助成団体のメッセージ **福島子ども未来塾**

相馬市に宿泊したとき、旅館の方から震災の体験談を聞きました。その時に見た動画には、津波がどンドン押し寄せ、高い建物が飲み込まれそうな場面があり、とても恐ろしく感じました。私は東日本大震災の記憶がほとんどなく、これまで震災の復興についても考えたことがありませんでした。しかし、未来塾の活動を通して私にもできることがあるのではないかと考えるようになりました。
(福島子ども未来塾参加者 小学5年生)

当財団に関する情報を発信しています。ぜひご覧ください。

東日本大震災復興支援財団

検索

みんなで
がんばろう
日本

公式ホームページ
<http://minnade-ganbaro.jp/>



公式フェイスブック
<https://www.facebook.com/ganbarojp>



話す・つながるをサポート

18歳まで携帯料金サポート



震災で保護者を亡くした子どもたちが、身近な人々と話し、つながるためのコミュニケーションツールとして携帯電話の料金をサポートしています。子どもたちが18歳になるまでの間、電話会社に関わらず、携帯電話やスマートフォンの料金を月々1万円までお支払いし、子どもたちを含むご家族の経済的な負担を軽減します。

支援総額 **1,846万円** 支援者数 **56人**

その他の支援活動

将来、東北の復興を担う人材の育成など、他にもさまざまな支援活動を行っています

ISHINOMAKI 2.0

中高生向けのキャリア教育学習、プロジェクト型学習、未来探求等を複合的に実践するプロジェクトへの支援

石巻のプレーパークと遊びを考える会

石巻市内の子どもが安心して暮らせるための居場所づくり事業

認定NPO法人カタリバ

小中高生向けの方のご学習指導施設における英会話や異文化理解を深めるグローバルプログラムの実施支援

小牛田高等学園フラダンス部

フラダンス部の活動を支援するとともに、財団への募金活動をしてもらう相互支援を実施

3.11みらいサポート

東北各地で東日本大震災の伝承活動を行う語り部を学校に派遣し、児童、生徒、保護者へ向けて震災の教訓を伝える「東北語り部派遣事業」を支援

一般社団法人田部井淳子基金

被災した東北の高校生たちと夏休みに富士山に登り、自然の素晴らしさを体験してもらいながら挑戦する力や仲間と協力する力などを高める

魂に響くギフトコンサートの会

音楽の力で福島県内の子どもたちの心のケアを行う活動を支援

特定非営利活動法人ツークンフトロカール

福島県内の子どもたちが集い、交流イベントを実施し復興活動について考えるきっかけを支援

特定非営利活動法人パクト

岩手県陸前高田市を取巻く環境とニーズに沿った子どもの居場所作りを支援

文楽・伝統芸能振興長野野委員会

福島の子供たちに伝統芸能を学び、体験してもらい心豊かなひと時を過ごしてもらう

団体概要

団体名 公益財団法人東日本大震災復興支援財団
設立日 2011年6月14日
人員構成 評議員6名、理事6名、監事2名
評議員 寺島実郎 一般財団法人日本総合研究所 会長
小宮山 宏 株式会社三菱総合研究所 理事長
村井 純 慶應義塾大学 環境情報学部 教授
中村 伊知哉 iU(情報経営イノベーション専門職大学) 学長
藤原 和博 教育改革実践家
青野 史寛 ソフトバンク株式会社 専務執行役員 兼 CHRO

代表理事 立石 勝義
理事 佐藤 大吾 NPO 法人ドットジェイビー 理事長
大橋 智哉 税理士法人山田&パートナーズ マネージャー
藤原 睦郎
中村 聡宏 千葉商科大学サービス創造学部専任講師、一般社団法人日本スポーツマンシップ協会 代表理事・会長
池田 昌人 ソフトバンク株式会社 人事総務統括 CSR 本部 本部長
君和田 和子 ソフトバンクグループ株式会社 常務執行役員
大城 聡 東京千代田法律事務所 弁護士
会計監査人 有限責任監査法人トーマツ

ご寄付のお願い

当財団では、皆さまからのご寄付を受け付けております。いただいた寄付金は被災地の子どもたちの支援のため、大切に活用させていただきます。ご寄付の方法については、下記または当財団のホームページをご覧ください。

財団の活動全般へのご寄付

銀行振り込み

当財団が行う支援活動全般へのご寄付です。いただいた寄付金は、被災地の子どもたちを支援するための活動に100%役立ててまいります。

みずほ銀行 大手町営業部 (112)
普通預金 3514117

公益財団法人東日本大震災復興支援財団
(ヨウエキザイダンホウジン ヒガシニホンダイシンスアイフッコウシエンザイダン)



つながる募金

携帯電話から

SoftBank の
スマートフォンから



その他の
携帯電話から



※ SoftBank のスマートフォンをお使いの方は、携帯電話料金と一緒に寄付金をお支払いいただけます。

※ SoftBank のスマートフォン以外をお使いの方は、「つながる募金」のページ経由でクレジットカード決済となります。

特定の活動へのご寄付

「まなべる基金」銀行振り込み

本口座への寄付金は、「まなべる基金」の奨学金事業実施のため100%役立ててまいります。

みずほ銀行 大手町営業部 (112)
普通預金 3514439

公益財団法人東日本大震災復興支援財団
(ヨウエキザイダンホウジン ヒガシニホンダイシンスアイフッコウシエンザイダン)

学べるしあわせをみんなに

高校生対象給付型奨学金

「まなべる基金」

その他、クレジットカードや、LIFULL ソーシャルファンディング、Tポイントによるご寄付も受け付けております。詳細は、当財団ホームページをご覧ください。

みんなで
がんばろう
日本 ● <http://minnade-ganbaro.jp/shien/donation/>

寄付の税制優遇措置について

当財団へのご寄付は、税制優遇を受けられます。



- ※ 1 個人住民税の対象は、全国一律ではありません。詳しくはお住まいの都道府県税務所・各市町村の徴収窓口までお問い合わせください。
- ※ 2 法人の申告については、その法人の資産や所得の金額によって限度額が異なります。各法人の経理部門または最寄りの税務署へお問い合わせください。

寄付者の皆さまからのメッセージ

久喜音楽文化振興会 (埼玉県久喜市)



久喜音楽文化振興会は、フォークソングやジャズの普及を目的として、2013年に設立した民間団体です。東日本大震災で被災された全ての方への想いを馳せる機会になることを願い、2014年3月より「東日本大震災復興支援コンサート」を毎年続けております。

2019年度にご寄付をいただいた皆さま (敬称略・50音順)

※1回の寄付金額が10万円以上で、承諾をいただいた方を掲載させていただいております。

アイティメディア株式会社	一般財団法人青梅マラソン財団	鈴木 千恵子	Venture Lab. 株式会社
秋葉 公子	神奈川県立希望ヶ丘高等学校 記念祭運営委員会	医療法人 創和会 しげい病院	マルヤ産業株式会社
岩本 和広	株式会社カンセン	千葉商科大学 スポーツビジネス BB プロジェクト	株式会社メアコロン
株式会社エイトラス	一般社団法人 暮らしのサポート推進協会	東武レジャー企画株式会社	株式会社 優建築工房
エルゼビア・ジャパン株式会社 レクシスネクシス・ジャパン株式会社 ※合同寄付	久喜音楽文化振興会	成田山深川不動産	特定非営利活動法人 ワーカーズコープ夢コープ
SBクリエイティブ株式会社	株式会社 KTS コーポレーション	HARIO 株式会社	株式会社リミックスポイント
SB C&S株式会社	株式会社ジャックス	福岡ソフトバンクホークス株式会社	
SB フレームワークス株式会社	第14回湘南国際マラソン実行委員会	BLUE TOKYO	

みんなで
がんばろう
日本 ●

公益財団法人東日本大震災復興支援財団

〒105-7313 東京都港区東新橋 1-9-1 東京汐留ビルディング 13 階
TEL:03-6889-1560 FAX:03-6889-1568

東北事務所：〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院 1-1-20 花京院スクエア 23 階



この印刷物は、復興支援の一環として、福島県の印刷会社に、デザイン制作および製造を依頼し発行したものです。

2020年6月発行